

5 - 10 東海地方におけるラドン観測 (XIX)

Radon Observation in the Tokai district (XIX)

東京大学大学院理学系研究科

Graduate School of Science, University of Tokyo

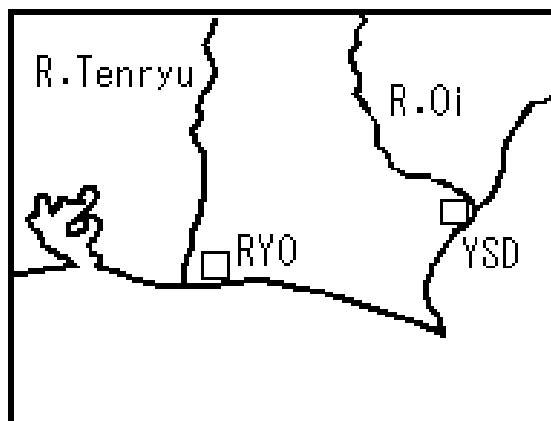
前報¹⁾ に引き続き、東海地方における地下水のラドン濃度の連続観測結果 (2001年6月~2002年4月) を報告する。

観測点は第1図に示す竜洋 (RYO)、吉田 (YSD) の2地点である。第2図は、RYO、YSDにおける、1時間毎のラドン濃度 (積算値) の24点移動平均値の時系列である。図の右上には、1998年以降のラドン濃度の観測値を示してある。OMZ では現在観測を停止している。

RYO、YSD では1週間程度の短周期の変動が卓越しているが、これは人工揚水の影響であると解釈される。YSD のラドン濃度は1999年までは大きく変動していたが、2000年以降は落ち着いた変動を示すようになった。

参 考 文 献

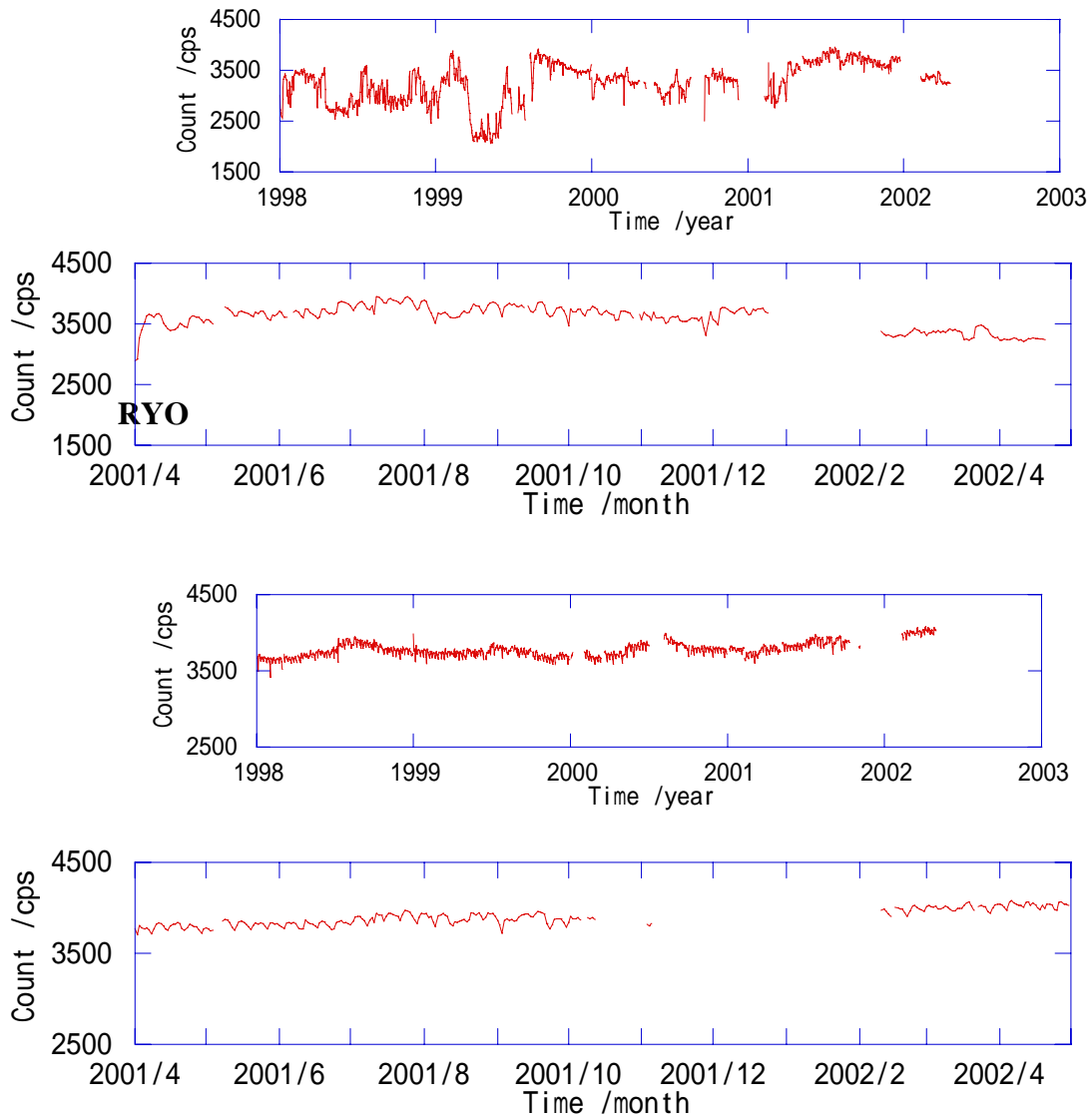
- 1) 東京大学大学院理学系研究科：東海地方におけるラドン観測 (XVIII)、連絡会報、66 (2000)。



第1図 東海地方の地球化学観測点の位置

Fig.1 Locations of geochemical observation sites in the eastern part of Tokai district.

YSD



第 2 図 YSD、RYO における地下水のラドン濃度変化

Fig.2 Temporal variations in the radon concentration in ground water at YSD, RYO. The data are 24-hour moving average value.